



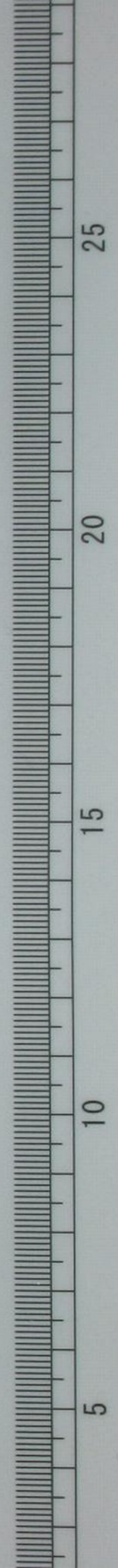
朝夷巡嶋記

第四編

三



113
939
寺18



4 13
937
4

朝夷巡嶋記全傳第四編卷之三

東都

曲亭主人編輯

浮雲の富貴草

滯衣乃弟古鳥

中輯第三十五

却説文字搦ハ心も外も時夏小説動され心頻安うな
 遠く小浴廬をぬくもの局へ退りうち響く眉帯小おろ顔
 塗く化粧果て結髪へ人任り鏡臺小對へ影とこれ二人後中
 入梳頭の婢兒の智恵も此彼と二人合さ文珠鬘聚る融す後
 毛の何う怯ま後髪際も運熟せ櫛の齒ふかろひのあまも
 誰より黄楊の長柄搦解ても擇ぬ謎こいり毛釣毛狄片心浮髻結
 の落著ぬ胸小湛く髪水も浅く汲き虚言欲實更ありせむその

朝夷巡嶋記全傳

仇人をいぞ知らんとかふくふとひもつ櫛笥の蓋のわけていらぬ身乃
 吉凶の凶祥やあふかう人衞りあて髪袿の神やあふ後がひつ小
 ちく羽立あ死身と今さう小悟らぬ世小りつまでう在り刃の鮮衣の
 飾整ふ時を程し多かまう程は文字搦胸の苦勞と黒髪を既小
 結さ果しとる疑ひを釋しうちるま且枕をとうりて裳小衣を
 被さう臥さひ居てさひ只時夏小りれり成りふくと按さる小
 最上の川は使ふ鷄ハ已が腹を肥さんとき人の為小鮎を捉る喙小か
 傷ささひを被さる何曾へうあらん夏の小ろ成推さる小鷄鳩ハ
 これ鷄東二るえ鮎ハ吾侪をいふまへ渠ハ玄歳の玄雷月吾侪をひ
 がけさる。洋人時夏小下さるふくそむくその程さる召返され後竟小
 その人は逢さる比さる殿小任仕諺し文字搦を追退け刀野太
 郎小賜ひと卒介はまうせし殿ハつやく聴しあるぞ渠又ハ筐姫を
 わく吾侪小代んとうつとも。それ今小夏あつとこれ小より鷄東二ハ
 吾侪を憎むとある人の竊小告しるもの。加旃頃日ハ渠御氣色と
 蒙り閉籠さるをさる。諫書を進せ殿の軍を外めハ奥
 ちうての明しあつて。うらぬと。さうとせり。そ由亦吾侪あるを小殿ハ
 遊興ハ醜さるふと故らあらん然るまるとその言を用ひ
 らまねがひと。吾侪を憎むさる増んかうさひとさるのうくも當らば
 こらう小仇人の鷄東二る。其をいれを御さる吾侪ハ遂小渠さる小
 害さるさるやさある。さふさ由彼浴室郎ハ各さるまると殿を恨む
 情あつとさる吾侪を恨むねんとさるのふ。さるまはさる小猶も
 誠を盡さるん再び物按さる小刀野ハ敗軍の咎やう。今雜兵は追

仇人をいぞ知らんとかふくふとひもつ櫛笥の蓋のわけていらぬ身乃
 吉凶の凶祥やあふかう人衞りあて髪袿の神やあふ後がひつ小
 ちく羽立あ死身と今さう小悟らぬ世小りつまでう在り刃の鮮衣の
 飾整ふ時を程し多かまう程は文字搦胸の苦勞と黒髪を既小
 結さ果しとる疑ひを釋しうちるま且枕をとうりて裳小衣を
 被さう臥さひ居てさひ只時夏小りれり成りふくと按さる小
 最上の川は使ふ鷄ハ已が腹を肥さんとき人の為小鮎を捉る喙小か
 傷ささひを被さる何曾へうあらん夏の小ろ成推さる小鷄鳩ハ
 これ鷄東二るえ鮎ハ吾侪をいふまへ渠ハ玄歳の玄雷月吾侪をひ
 がけさる。洋人時夏小下さるふくそむくその程さる召返され後竟小
 その人は逢さる比さる殿小任仕諺し文字搦を追退け刀野太
 郎小賜ひと卒介はまうせし殿ハつやく聴しあるぞ渠又ハ筐姫を
 わく吾侪小代んとうつとも。それ今小夏あつとこれ小より鷄東二ハ
 吾侪を憎むとある人の竊小告しるもの。加旃頃日ハ渠御氣色と
 蒙り閉籠さるをさる。諫書を進せ殿の軍を外めハ奥
 ちうての明しあつて。うらぬと。さうとせり。そ由亦吾侪あるを小殿ハ
 遊興ハ醜さるふと故らあらん然るまるとその言を用ひ
 らまねがひと。吾侪を憎むさる増んかうさひとさるのうくも當らば
 こらう小仇人の鷄東二る。其をいれを御さる吾侪ハ遂小渠さる小
 害さるさるやさある。さふさ由彼浴室郎ハ各さるまると殿を恨む
 情あつとさる吾侪を恨むねんとさるのふ。さるまはさる小猶も
 誠を盡さるん再び物按さる小刀野ハ敗軍の咎やう。今雜兵は追

降らまし。その恥をりも雪んとく。吾侪小舊念を棄て。厄を告仇と告
 言の報ひ小執成と憑んとその所為るべ。まゝんま今更小いと痛
 き死に小まん。そゝもれかもあま。うや人ま告られども。彼鶴東二が
 飽ちま。吾侪を憎しと。あつりハ吾侪も豫さより。知まり。せんまわん
 と胸小る。波の白波立騒ぐ。心必ひとり鎮めても。有撃女子の智惠の
 海深死伎倆を浅ちる。小解得し謎を枉津日の神と。竟小知らざり
 けり。折しとあま鼓ら。少女二人や。遠く走り来り。文字搦の方や
 ま。殿の居せま。小誘多。人とい。と。せ。六文字搦。身と起し。聊
 勞。其を養んと。程小平日より。時の後れ。さ。さ。さ
 待せま。ひけり。おん理り。小ゆる。か。さ。さ。さ。桂衣脱更。と。ハ。童女。ホ。が。ま。ろ
 る。並層。廊下。履裳。掲。く。先。小。立。金蓮の歩。唯。鴛。乃。浮。宿の
 床を離。ま。件の少女。共。侶。小。後。廳。へ。赴。け。ば。経。任。の。け。り。も。舞。妓。歌
 唱。夥。集。令。く。酒。宴。既。小。酣。え。され。ば。郢。曲。煩。む。の。艶。死。る。合。奏。の。撥。を
 揚。ま。石。積。の。飛。泉。鼓。々。と。く。山。巖。を。撲。く。と。疑。と。垂。袖。歌。舞。乃。燒
 ち。仙。蝠。の。扇。を。翻。せ。江。天。の。雪。霏。と。く。風。小。奈。く。と。怪。る。況。と
 美酒。珍。饌。の。衆。ヨ。ま。る。肉。を。丘。と。酒。成。池。と。と。彼。鹿。臺。の。象。牙
 の。箸。又。朝。歌。牛。飲。の。觴。具。足。ら。む。と。い。め。と。あ。る。ま。不。筑。紫。の。磐。井。か
 富。ご。小。も。尚。屑。と。せ。ど。伊。豫。の。純。友。が。驕。る。も。い。ま。ご。飽。ち。と。心。あ。る
 べ。既。小。是。花。唇。柳。腰。百。の。媚。あ。る。淫。女。ホ。も。後。ま。く。来。ぬ。る。文字。搦。が
 主。の。邊。小。竹。ま。及。び。く。花。の。う。ら。ち。あ。る。深。山。樹。あ。る。で。あ。ら。ど。優。お。と
 誰。う。い。ん。僉。色。ま。れ。が。如。く。あ。ま。ま。徑。任。の。興。小。入。く。右。小。この。戀。及。妾。を
 挾。ミ。左。小。琥珀。の。盃。を。廻。し。く。と。傾。け。ま。又。浮。く。ま。強。飲。乱。醉。時。成

程く。文字搦が膝成枕小窓を酔臥し。當下文字搦の婢們は
 密語に皆そのあつては泣く。或は臥る。主の裙小衣成被或は盃
 盤を運ひ納る程小日暮れ夏の夕光を照らす。や黄昏小あり。え
 更小間毎小許まき。燈臺小火を點し。幾枚と形長廂の兩戸
 緋色にちとちと。物々整く。後僉文字搦小暇を告ぐ。各小局へ退
 去ぬ。既小く初更の比経任の醉醒く。こゝにさびしみの程より。これハ孰
 睡まき。うん膝を貸さる文字搦は。舊の俣小を渠何るを。歎
 くらんといと。さうりた面色を成訝しく。を身と起し。片頬と
 拭ひ。嚮小これ大醉と。汝が膝を枕小せしを。知さう。れさ分堪さかり
 法らん小身を動さ。覚る成俣。今小をめぬ實情さう。さうれども
 る不さう。ほぐさへ。今一滴の花の露。が面を撲。隨小散馬。死さ。汝を

こゝにさびしみの眼中小涙を合。心の真愛あふ小似たり。さう。知さう。こゝに面を
 濡せし。汝が涙さう。成。れ。さ。う。も。抱。成。さ。ふ。も。余小のひが。れ。と。や。あ。
 明く地小告さう。といられ。さう。と泣沈む。声。さ。う。は。ま。け。く。鶯の諸羽。濡さ
 驟雨。絞る。さう。の袖の隙小目を拭ひ。頭を擡。さ。う。肉小あ。さ。さ。て。
 色。さ。外小見。さ。う。怪。さ。な。さ。う。さ。う。苦。さ。う。苟。且。さ。う。ぬ。れ。ん。情。と。
 稟。さ。う。花。や。ぐ。さ。う。あ。さ。う。人の嫉妬も。大。さ。う。さ。う。を。争。ひ。幸。成。
 羨む。女子。さ。う。然。も。あ。さ。う。を。妾。小。異。形。仇人。さ。う。と。生。男。を。経。任。さ。
 あ。さ。う。汝。が。仇。何人。を。為。小。日。さ。う。その仇を殺さん。さ。う。告。さ。う。い。さ。が。後。
 方。を。見。さ。う。声。を。細。さ。う。さ。う。問。せ。さ。う。今。小。匿。む。べ。く。も。侍。さ。う。妾。が。仇。ハ
 殿の軍師。蘇塗。鶉。東。二。暴。道。へ。渠。の。さ。う。不。軟。妾。を。憎。さ。う。さ。う。歳。の。さ。う。
 時。夏。小。妾。を。賜。へ。と。さ。う。の。さ。う。或。ハ。筐。姫。を。薦。さ。う。さ。う。と。欲。し。又。頃。日。ハ

渠外ねとちありわきまくちこも龍りゆう下さ居ゐるま。諫書きんしよをけん刺殿しつてんの奥にあん
 遊樂ゆうらく小耽せうたんにあるまふか文字もじ搦なりしてあるまふか人ひともあるまふか亡なした御遊興ごゆうきやう
 根ねを斬るつ。且かつ忠臣ちゆうしん小ああららどど賢けんとあららどどのびくく小刃せうはを磨りせ隙ひまを
 窺のぞみしと正しく人の告げを浅あくく限かぎにあららどどひひろろくく人ひとの怨と恨ん
 正ただし難多た。渠ねへ智恵ち人ひと小勝せう多た。計はからな長ながくあららどど軍師ぐんしのあ
 せをましけめ妾めかけも終に計らな命いのちを其如ごと小墮おれしてあららどど側かた小せうつつと
 今宵こんしやう限かぎり小あらららどど有ありし撃うち小あらららどど定さめられしてあららどど名残なごり之を惜おぼれして
 哀あはれしてあららどど宵よ小塞せき不ふ覚さくく涙なみだをあららどど落おちてあらららどど面おもてと汚れしてあららどど軟なめられしてあららどど熱度あつどと
 小せんせうせん許をあらららどど時とき夏なつがかける謎めをあららどど解とけしてあららどど言葉ことば巧たくましいの廻まわりを
 解語かいごの花の雨散ちりり如ごと歎なげかり。經任きやうにんはあららどど成なれしてあららどど隨まりて成なれしてあららどど頭あたまと
 傾かたむし。尋思じんしもあららどど久ひさしくあらららどど呵あくくとあららどど笑わらひの文字もじ搦なりしてあららどど惑まどひをあらららどどん
 暴道ぼうだうのいぬり比ひよりかこをあらららどどあらららどど諫きんの中にあららどど
 文字もじ搦なりしてあららどど字じといひしるのなり。渠ねへ余小仕せしてあらららどど年来ねんらいを歴して
 けしてあららどど主ぬしの為にあららどどいしるのなり。余あららどど愛あい妾めかけを亡れしてあららどど計はからなれしてあららどど縦たんをあらららどど
 ちろろあららどどいしるのなり。ぬをあらららどど欲ほしくとあららどど汝なんぢの深窓ふかまど小ありの渠ねへ閉りしてあららどど龍りゆうられして
 宿野しゆくの小ありの慮りるの小足あしるのあらららどど汝なんぢが為にあららどど小命せうめいもあららどど竊ひそかに暴道ぼうだうと
 防かませんの公こうかとくくとあららどどとあららどど慰なぐさむの伏ふ拜ばいとあららどど巖いわ鷲じゆの山もあららどど數かずりしてあららどど高たかきの君きみが
 御思ごしひを就つくも又またひつつ心苦くるしとあらららどど時とき夏なつの罪もあららどど浴室ゆすい郎らう小せうせし
 且かつとあららどど妾めかけが浴するの毎ごと小壁かべを隔てあららどどその声をあららどど聞きくもあらららどどとあららどど
 渠ねへ何ともあらららどどとあららどど妾めかけのとあらららどど羞はづれしてあららどどんや君きみもあららどどようなしてあららどど計はからなれしてあららどど
 且かつ經任きやうにんちち領りやうれしてあららどどあらららどど理りもあららどど時とき夏なつの罪重おもいのとあららどど亦またその舊功きゆうこう
 されしてあららどどねにあらららどど小浴せうよく廬いの役を免れしてあららどど團奴だんぬもあららどど徴ちゆうせんの軟なめられしてあららどど今いま

渠外ねとちありわきまくちこも龍りゆう下さ居ゐるま。諫書きんしよをけん刺殿しつてんの奥にあん
 遊樂ゆうらく小耽せうたんにあるまふか文字もじ搦なりしてあるまふか人ひともあるまふか亡なした御遊興ごゆうきやう
 根ねを斬るつ。且かつ忠臣ちゆうしん小ああららどど賢けんとあららどどのびくく小刃せうはを磨りせ隙ひまを
 窺のぞみしと正しく人の告げを浅あくく限かぎにあららどどひひろろくく人ひとの怨と恨ん
 正ただし難多た。渠ねへ智恵ち人ひと小勝せう多た。計はからな長ながくあららどど軍師ぐんしのあ
 せをましけめ妾めかけも終に計らな命いのちを其如ごと小墮おれしてあららどど側かた小せうつつと
 今宵こんしやう限かぎり小あらららどど有ありし撃うち小あらららどど定さめられしてあららどど名残なごり之を惜おぼれして
 哀あはれしてあららどど宵よ小塞せき不ふ覚さくく涙なみだをあららどど落おちてあらららどど面おもてと汚れしてあららどど軟なめられしてあららどど熱度あつどと
 小せんせうせん許をあらららどど時とき夏なつがかける謎めをあららどど解とけしてあららどど言葉ことば巧たくましいの廻まわりを
 解語かいごの花の雨散ちりり如ごと歎なげかり。經任きやうにんはあららどど成なれしてあららどど隨まりて成なれしてあららどど頭あたまと
 傾かたむし。尋思じんしもあららどど久ひさしくあらららどど呵あくくとあららどど笑わらひの文字もじ搦なりしてあららどど惑まどひをあらららどどん
 暴道ぼうだうのいぬり比ひよりかこをあらららどどあらららどど諫きんの中にあららどど
 文字もじ搦なりしてあららどど字じといひしるのなり。渠ねへ余小仕せしてあらららどど年来ねんらいを歴して
 けしてあららどど主ぬしの為にあららどどいしるのなり。余あららどど愛あい妾めかけを亡れしてあららどど計はからなれしてあららどど縦たんをあらららどど
 ちろろあららどどいしるのなり。ぬをあらららどど欲ほしくとあららどど汝なんぢの深窓ふかまど小ありの渠ねへ閉りしてあららどど龍りゆうられして
 宿野しゆくの小ありの慮りるの小足あしるのあらららどど汝なんぢが為にあららどど小命せうめいもあららどど竊ひそかに暴道ぼうだうと
 防かませんの公こうかとくくとあららどどとあららどど慰なぐさむの伏ふ拜ばいとあららどど巖いわ鷲じゆの山もあららどど數かずりしてあららどど高たかきの君きみが
 御思ごしひを就つくも又またひつつ心苦くるしとあらららどど時とき夏なつの罪もあららどど浴室ゆすい郎らう小せうせし
 且かつとあららどど妾めかけが浴するの毎ごと小壁かべを隔てあららどどその声をあららどど聞きくもあらららどどとあららどど
 渠ねへ何ともあらららどどとあららどど妾めかけのとあらららどど羞はづれしてあららどどんや君きみもあららどどようなしてあららどど計はからなれしてあららどど
 且かつ經任きやうにんちち領りやうれしてあららどどあらららどど理りもあららどど時とき夏なつの罪重おもいのとあららどど亦またその舊功きゆうこう
 されしてあららどどねにあらららどど小浴せうよく廬いの役を免れしてあららどど團奴だんぬもあららどど徴ちゆうせんの軟なめられしてあららどど今いま

小決めぐる。渠ホぐる人まぐらふとふとや更闌しう。おれと寝ん誘
 とむらふ小を以て推つと。鮎く臥房小入る小なり。かくその詰且神井鬼
 六猛虎鐵指矢藤五重連珍浦五十五六方相蹈犬吠又陰行ホ
 連署し。経任を諫るや。某ホ頃日へ間諜者をり。敵の虚実と
 撈窺とる小光仲が陣中。時疫よりく死するの甚ましく且その兵
 糧乏くけり。進退難義小及ぶといふ。便是天の祐る所なり。く
 龍裝敷べり力の乏まることも。君公後堂小のまより。故ふ士率かのつ
 小小怠り。戦ふのたろる。をや正廳より出り。軍議の憲則と
 多ふ。幸ひ甚し。人々を書り。経任これを以て。已に成る。軍
 議の席小先と。時文字掲を召近つけ。云云の義ゆりて。軍
 敵を襲んと欲と。然るこの序より。鬼六トと密譚し。汝が仇の真偽成
 探らん。かき。小早暮し。姑く樂を俱小。さ。放し。く
 敵小克日を俟必ふ。の成りひそ。叮嚀小慰む。文字掲涙
 堂と廳と。か。御館の内。心まぬ。死と
 快楽の喜見城。彼処も生死不定の場。牡鹿の角乃
 束の間も。おん側小。は。この日を。消さ。死といひ
 左袖小顔と。當。経任の。立かぬ。鬼六ホ。ま。く
 請。る。中。出。小。程。時。夏。の。嚮。小。文字。掲。を。謀。ん。と。く
 外。多。驚。せ。その。折。小。の。を。彼。九。尾。の。狐。奴。が。處。く。浴。果。し。ん。
 宵。安。る。ぬ。故。ま。る。渠。の。素。より。その。性。伶俐。を。か。日。意。を。釋。さ。す
 ん。や。釋。の。も。修。羅。殿。小。鶴。東。二。が。の。成。り。ん。然。ら。ば。謀。行。り。と。く
 と。合。咲。く。又。その。次。の。日。を。ま。る。よ。この。朝。も。文字。掲。の。第一。番。小。浴。ら。童

女ホウ声高く。浄湯を呼ぶ程。小時夏ハ忘と答々湯を溢るまら
汲りける。覓を文字掲えたる。

無火のえれ若くは鷄の繩も最上の川小うけとてとけと再之び

口遊ミさぬさあめく浴廬を出る。時夏ハ風雅小疎う。歌とて

知るのちねども今文字掲が詠しる。三十一字を致す。このうけ

ふるこが謎をとも鷄東ニケるえと解ゆ。一外さう。これ小知

ま俗歌ありん。さうらん。小疎小事を行ふ。そのめは彼星奈道ハ

智ありのく。這奴小まらとてとあふ。禍災う。こが小及ん。まらとて

かやねふ。た秋とて。その便を俟む。小徑任ハ軍議。請れ。内房ハ

在るまら。いふ。婢兒們ハ名ひ。ひる。且く暇あ。力ふる。この故

けの五人。三人。うち。立。浴。隨。小時夏。火焚。の役。平日。少。あ。ま

ま。中。果。この時。を。も。虚。小。過。ま。何。の日。あ。本。意。成。遂。げ。さ。ま

心。い。ま。く。准。備。の。一。刀。服。挟。く。庭。掃。の。小。僕。小。紛。し。庭。門。を。偷。入。る。内。房

の。光。景。を。窺。ふ。この。四。下。の。地。木。を。よ。う。く。目。を。見。る。眼。を。幾。百。株。乃

牡丹園ゆ。あ。ま。け。この。花。あ。ま。く。文字。掲。が。愛。つ。い。で。身。を。と。あ。ん

と。ま。ら。む。杖。を。も。く。面。を。果。を。足。を。偷。れ。項。を。伸。し。遙。小。内。房。の。う。さ

口。小。い。と。静。め。く。音。も。せ。む。時。ハ。下。晡。小。ま。く。夕。陽。小。色。を。も。は。花。を

紅。あ。ま。白。あり。薄。あり。濃。あり。と。名。も。ま。ま。く。よ。け。る。牌。よ。む。と。む。げ。折

ち。ね。頭。ま。く。入。る。隠。ま。く。見。る。牡丹。小。狂。小。蝶。蝶。の。葩。を。う。ち。遠。さ。が

と。く。心。も。聲。も。お。ち。著。ま。楽。め。り。ま。ま。ぐ。い。を。ま。ま。ぐ。今。宵。臥。戸。小。潜

る。便。も。か。と。葉。も。恋。の。あ。ぬ。怨。の。寝。又。宵。小。合。く。寃。ひ。り。か。る

護^ご容^{りょう}子^し任^{にん}暴^{ぼう}道^{だう}を^を擊^うむ
戎^{じゆう} 任^{にん} 子^し 容^{りょう} 護^ご

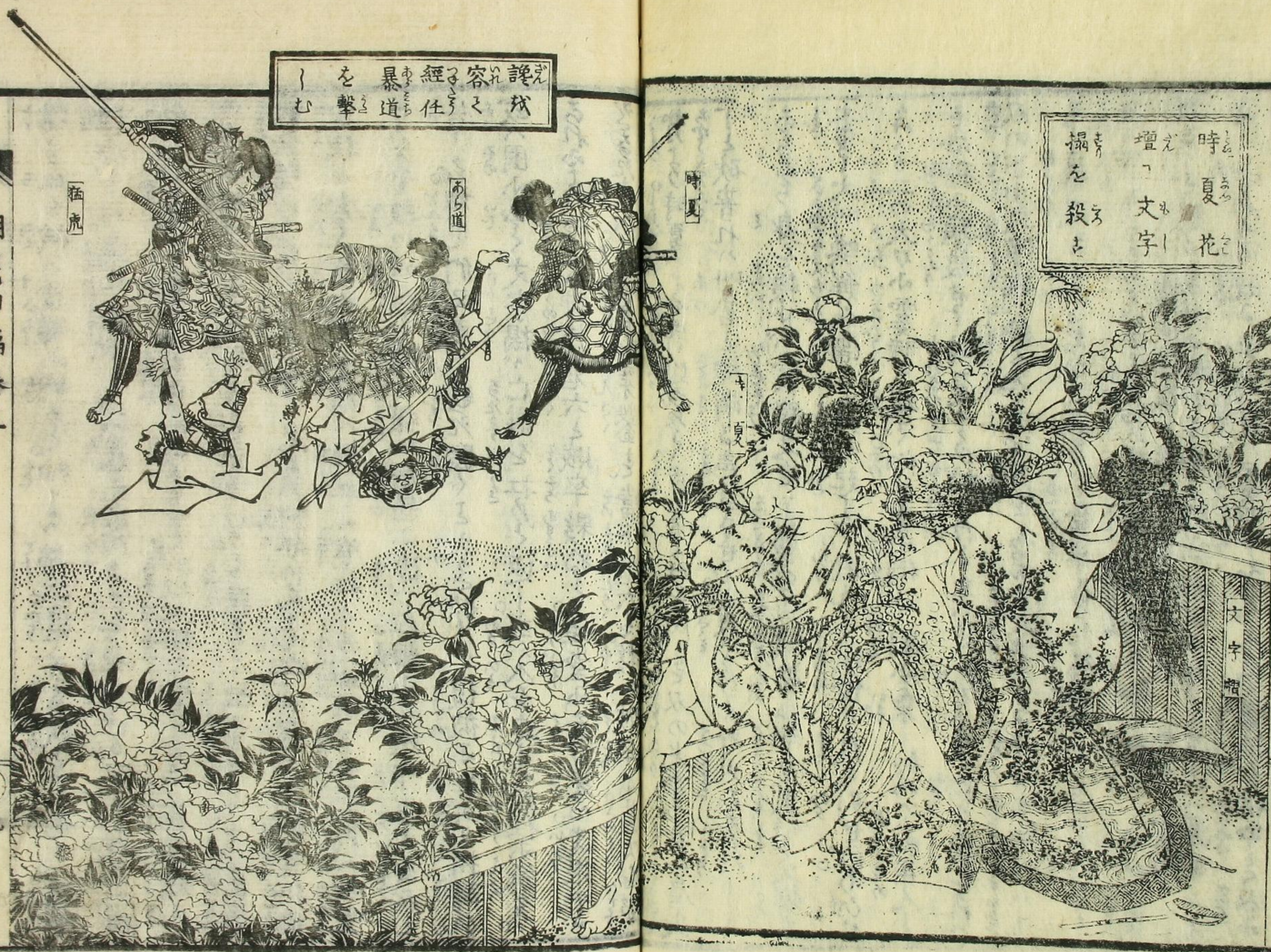
猛虎

あし道

時夏

時^{とき}夏^{なつ}花^{はな}
壇^{だん}文字^{もんじ}
撮^{しやく}を^を殺^{ころ}す

文字



深^こく血^ちを拭^ぬひ捨^す腰^{こし}小^こ納^なめ^め袖^{そで}うち拂^はひ遺^おすふ拭^ぬと揚^あげ復^た煩^{わづ}
 被^かふく^く造化^{そくわ}高^{たか}妙^{めう}とゆ^ゆ暮^{くれ}小^こ庭^{てい}門^{もん}より脱^{だつ}去^そける^けかり^りた^たこの
 知^ちる^る母^{はは}屋^やを去^さると百^{ひゃく}步^ぽ小^こあま^まま^まく^く加^か以^い入^い相^{さう}の比^ひる^る元^{げん}暮^ぼ舎^{しゃ}鎖^さ戸^こ
 の音^ね小^こ紛^まれ^れこ^こま^ま我^{われ}知^しる^るの^のあ^あり^りけ^けり^り少^{せう}選^{せん}ま^まく^く彼^{かの}童^{どう}女^{にょ}ま^ま花^{はな}送^{そう}花^か
 鉄^{てつ}を携^{たづ}ひ^ひ舊^{きう}の知^ち小^こ牙^がこ^こん^ん不^ふ何^{なに}知^ちゆ^ゆえ^えぬ^ぬハ在^あら^らど^ど是^こ首^{こう}欵^{くわん}彼^か
 首^{こう}欵^{くわん}と索^{さく}る^る程^{ほど}小^こ文^{ぶん}字^じ搦^なへ^へ鮮^{せん}血^{けつ}は塗^ぬれ^れ花^{はな}壇^{だん}の^の下^げ小^こ臥^ふれ^れバ吐^あ嗟^そ
 と^となる^ると駭^{さい}れ^れ叫^{きう}び^びと轉^{てん}つ^つ輾^{てん}母^{はは}屋^や小^こ近^{ちか}つ^つれ^れ頻^{ひん}小^こ入^い城^{じやう}呼^こぶ^ぶと云^いふ^ふと
 告^こぐ^ぐ婢^ひ兒^に們^{めん}又^{また}更^{さら}小^こ駭^{さい}れ^れ騒^{さう}ぐ^ぐと大^{おほ}き^き形^{かたち}を^を復^{また}彼^か小^こ告^こ此^こは^は相^{さう}譚^{だん}ハ
 或^{ある}ハ園^い小^こ出^いで^で文^{ぶん}字^じ搦^なぐ^ぐ亡^な骸^{がい}を^を打^うり^り返^{かへ}し^し或^{ある}ハ人^{ひと}を^を走^はり^り経^{けい}任^{にん}小^こ拵^{ぢゆう}る^る
 され^れゆ^ゆる^る経^{けい}任^{にん}ハ神^{かみ}井^い鬼^{おに}六^むと賊^{ぞく}卒^{そつ}夥^たる^る後^ご堂^{だう}小^こま^まの^の牙^がつ^つ送^{そう}恨^{こん}中^{ちゆう}
 かり^りた^たま^ま小^こ且^{また}癡^ち者^{しや}を^を穿^{せん}牙^が鑿^{さく}ま^まと當^{あた}下^げ鬼^{おに}六^むと駭^{さい}の^の賊^{ぞく}卒^{そつ}小^こ蕉^{せう}火^かを^を照^{てう}
 させ^せく^く隈^かま^まく^く園^いを^を求^{もと}獵^りま^まと^とも^も程^{ほど}歴^{れき}り^りと^とも^もま^まが^が蹟^{せき}ぐ^ぐゆ^ゆも^も認^{にん}
 ま^まと^と皆^{みな}ゆ^ゆづ^づふ^ふか^かり^り取^とる^るぬ^ぬ経^{けい}任^{にん}と^とま^ま候^{まち}つ^つ子^こと^と僉^{せん}羨^{せん}の^のふ^ふか^かり^り
 や^やと^と向^{むか}へ^へ鬼^{おに}六^むと^と懷^{わい}より^り血^ち小^こ染^{せん}ま^まる^る字^じ紙^しを^をこ^こゆ^ゆと^と引^ひ伸^のし^し透^とり^りこ^こと^と
 経^{けい}任^{にん}が^がや^やる^るふ^ふこ^こう^うあ^あせ^せ君^{きみ}公^{こう}ま^まる^るこ^これ^れを^を肉^{にく}せ^せ文^{ぶん}字^じ搦^なが^が破^やれ^れ邊^へ小^こ
 遺^おす^す物^{もの}ハ只^{ただ}こ^これ^れの^のま^まり^りま^まと^と癡^ち者^{しや}が^が刃^{やいば}の^の濃^{のう}血^{けつ}を^を拭^ぬり^りま^まる^るま^まり^りと^とも^も
 白^{しろ}紙^しあ^あま^まと^と幽^{ゆう}小^こ文^{ぶん}字^じの^のこ^こん^んえ^えと^とま^まの^のふ^ふか^かり^りた^たま^まの^のふ^ふか^かり^りた^たま^まの^のふ^ふか^かり^りた^たま^ま
 墨^{すみ}色^{しき}薄^{うす}く^く且^{また}鮮^{せん}血^{けつ}小^こ染^{せん}ま^まる^るこ^これ^れが^が定^{さだ}ま^まる^るふ^ふは^は讀^よま^まし^しゆ^ゆと^とい^いふ^ふは^は経^{けい}任^{にん}の^のま^ま
 ち^ちと^と件^{けん}の^の字^じ紙^しを^を揚^あげ^げ亦^{また}燈^{とう}燭^{じやく}よ^よう^う翳^{かげ}し^しと^とん^んか^かり^りた^たま^まの^のふ^ふか^かり^りた^たま^ま
 孰^{じやく}賊^{ぞく}卒^{そつ}亦^{また}退^{たい}し^しと^と鬼^{おに}六^むを^をの^の間^ま近^{ちか}く^くゆ^ゆせ^せ猛^{まう}虎^こを^を何^{なに}と^と見^みる^る
 墨^{すみ}色^{しき}の^のう^うと^と薄^{うす}た^たふ^ふ知^ちる^るを^を塗^ぬ抹^まし^しま^まる^る文^{ぶん}義^ぎを^を知^ちる^るま^まの^のふ^ふか^かり^りた^たま^ま
 こん^{こん}ハ^ハ諫^{けん}の^の状^{じやう}ま^まる^るされ^れハ^ハ是^こ暴^{ぼう}道^{だう}が^が状^{じやう}の^の草^{そう}稿^{こう}小^こ疑^ぎハ^ハなり^りか^かま^まる^るハ^ハ文^{ぶん}字^じ

搦を殺せしむの成問むごとく知るは死のまじき奴この草稿を懐紙乃問小
 入と成忘れしむ小身よ著て遠く白紙とるひつ刀の濃血を拭ひ
 さん暴道奴ハ才小諱と我意を建んとる癖あり。こまゆとるひ合
 ままらこの小竊小文字搦がこれ小云と告るるは。さうまらこまら
 猶さるるのわらと。とるひふ交忽よせし故小遂よ愛妾成喪る。這奴
 憎むへ。腹きき。汝ハ野の士卒をおと暴道が宿所小乱入。とく
 首撃とく。とるひふ。捕を逃し。と敦團々。卷成捺。歯を切り。刃を
 震し。と怒り。鬼六つ。とちや。膝拍鳴し。と嘆賞し。君公乃賢
 察。寔小當。と。ん憤。亦宜。と。寄。の軍兵。問。と
 通。久。柵外。在。今。兵。を動。と。躬。方。の。大。將。を。撃。と。多。の。敵。小。勢
 の。成。添。ふ。似。と。且。愚。意。と。の。と。明。日。小。假。托。と。暴。道。と。詭。引

世幕の陰小力士を伏せし文注所。と。誅。と。是。然。の。良。策。と。ん
 但。暴。道。ハ。思。慮。才。幹。あり。其。と。と。その。劍。法。刺。技。も。亦。衆。人。と。提
 と。宜。捕。隊。の。大。將。を。擧。と。中。小。矢。藤。五。五。五。六。伏。又。亦。ハ。皆
 暴。道。と。交。り。篤。今。この。二。頭。領。を。除。と。八。時。夏。小。勝。の。あり。その。他。ハ。暴
 道。が。敵。小。足。と。某。又。その。副。と。り。て。時。夏。小。力。と。勳。と。暴。道。縦。翅
 走。と。逃。走。と。る。を。願。と。時。夏。が。罪。を。宥。め。と。捕。と。乃。大。將。と
 志。多。と。渠。歡。と。粉。骨。と。竭。と。さん。か。と。その。功。あり。小。彼。を。め。と。此。小
 換。と。一。個。の。頭。領。を。誅。戮。と。又。一。個。の。頭。領。を。用。と。と。是。君。臣。の。幸
 と。賢。慮。如何。と。真。と。言。詳。小。勸。と。経。任。この。後。後。ひ。て。雲。時
 怒。り。を。忍。び。と。翌。の。捕。隊。の。分。配。を。み。と。鬼。六。小。任。せ。と。抑。神。井。鬼。六。と。月
 来。暴。道。と。睦。と。又。時。夏。を。見。負。と。渠。と。其。意。小。協。と。と。め

鬼六時夏が圓山の館を攻落し信夫莊司を撃つ。暴道竊小隊
 兵を進め、筐姫を生拘りて、徑任小贈に當時その功へ鬼六
 時夏木が上小あり。こゝより件の西賊將ハ暴道をいへ、恨り又時夏ハ
 この春より鬼六が副將ありし。暴道が鎮守府あり。故城を成る小及
 ひく。その副將小せき。時夏ハさへ鬼六も亦こゝに飲ひて。こゝより乃
 猜忌あり。力り龍蛇茂林の敗軍の比、只鬼六の之を諫寛て時夏が
 死を救ひ。今又渠が為小勸解し、捕隊の大將小薦揚け。是れその同
 氣相求め。已小勝を已む。さうとさ小人の奸智よ。さう。かゝる類ヨク。さ
 況賊將のる。小あ。便是毒をり。毒を征さるといふ。さう。人間話休題。
 蘇塗鷄東二暴道ハ敗軍の外。小よ。さう。龍をり。さう。暴道ハ頗小
 状を進め。徑任を諫。さう。用らる。さう。甲斐さう。さう。さう。

經任俄頃小後堂の遊樂を退けて。今朝より軍議を度と。灰小使。さ
 一。原來諫言空。さう。既小その非を知。さう。い。と。さう。さう。さう。
 次の日。徑任ハ使者を暴道が宿所へ遣。さう。敗軍の罪を免許。さう。出仕
 者。軍議小加。さう。い。さう。暴道ハ欣然と兼伏。さう。疑。さう。礼。さう。
 整。後卒の汰。さう。侯。さう。使者と。さう。つれ立軍議乃席。さう。赴。さう。程。さう。
 幕索断落。さう。身甲。さう。暴雄。さう。見。さう。出御。さう。呼。さう。
 暴道。さう。龍。さう。左右。さう。組。さう。暴道。さう。見。さう。些。さう。騷。さう。
 眼。さう。瞪。さう。無礼。さう。振。さう。釋。さう。再。さう。寄。さう。搔。さう。脚。さう。撞。さう。投。さう。退。さう。け。さう。撲。
 仆。さう。手。さう。煉。さう。早。さう。技。さう。撓。さう。と。さう。瞬。さう。間。さう。小。さう。五。さう。六。さう。人。さう。或。さう。ハ。さう。頭。さう。を。さう。折。さう。裂。さう。と。さう。或。さう。と。さう。
 足。さう。を。さう。折。さう。と。さう。生。さう。死。さう。と。さう。老。さう。と。さう。倒。さう。と。さう。透。さう。を。さう。窺。さう。不。さう。時。さう。夏。さう。ハ。さう。鏃。さう。衣。さう。小。さう。條。さう。肱。さう。甲。
 臍。さう。甲。さう。と。さう。裾。さう。短。さう。小。さう。打。さう。扮。さう。短。さう。柄。さう。の。さう。鋒。さう。を。さう。閃。さう。と。さう。也。さう。と。さう。声。さう。を。さう。響。さう。出。さう。と。さう。或。さう。と。さう。の。さう。

ととと反揚く左の成掛る短刀を抜間あせせど又肉を鋒乃柄細く
 動せど鋒頭を抜る坐敷の秘術怯むを透さず幾度矢と投げ鋒の刃
 尖小時夏ハ股成縫とて撲地と坐る暴道得る事と刀を引抜死砍と
 進む後より走り蒐る鬼六が短鋒小膳申れく小膳を突立引禁免
 怒る声をふり激しと時夏は賣れたん修羅殿竟小時夏は
 忠臣を殺し多バこの柵多く有えやと敦圍間小時夏を股立する
 鋒頭成抜捨刀を杖小身を起しと足を引の暴道が背のさう進
 上りてくるや首せり落ちぬ當下経任ハ屏風の後より達し出
 鬼六を譽時夏が罪を赦しと金瘡保養の暇をとらせ猶も怒小堪
 さりけん暴道が首級と蹂躪てさひの隨小罵つ僅小憤成散さるる死
 せし文字榻が返り来へん小あざざと鬱とて樂まきこれゆり寄の

陣を襲んと口ゆいどおろ後と一日こと懈り不題鐵指矢藤五重連ハ
 此度経任が時夏を赦し用ひく俄頃ハ暴道成敷せしるるは
 どのふらんハ暴道と睦るぬ鬼六が所為ゆあんと猜せしハ経任が久後憑
 一がど夏の難義小及ぬ前小脱と去んと尋思ハ後の謀とさるとはふ
 経任がこの来石室小秘藏せる一卷の魔書あまけり矢藤五の成
 偷取く脱まげ便を俟と恒小用ぬ石室さるるハ秘書の失せしと知
 のあつたれかく矢藤五ハ一日軍議の序をひと経任小のや厨川の柵ハ
 當所の根城さる。暴小踏犬吠又が隊兵成射てす小参り田り後其が
 弟さる。象子彈平太負持數百騎小將とて今も不彼処を成れり彼彈
 平太ハ年尚少く勇悍餘りあまも謀慮さる。寄のの大將光仲ハ素より
 武略小長しるの久くこの柵を囲まらる。絶く下さるも攻敷さるる後を

龍長ん為らむとや某浅智短才なるも厨川小助に弾平太力と勲
 彼知を成らば過失ありこの浅きと眞実いげは速まが経任大死小
 悦び重連が遠謀が意は稱へる汝が厨川を成らばこれその日より
 後中をけんあるも兵を遣ち遣難し只その私率のを好む夜は
 紛まて柵をわすれ術をのけ汝を助けん準備をせよとぬそが例の契と
 通す小丸矢藤五の欣然とて件の契を受納めその夜更蘭て腹心
 の賊僕五七人を招き潜る後門より出る程に経任の幻術をのけ天城
 墨を風を起し竊めこれを資し矢藤五ホも障る寄りの陣前を
 うち過る厨川と投く走る夜を日小續ぶ心そむくを彼知小
 来著し象子彈平太負持小對面し又偽る使者と稱し更小経任が
 命を傳へく平泉より數度の戦ひゆりて矢種甲曹之くありぬこれ

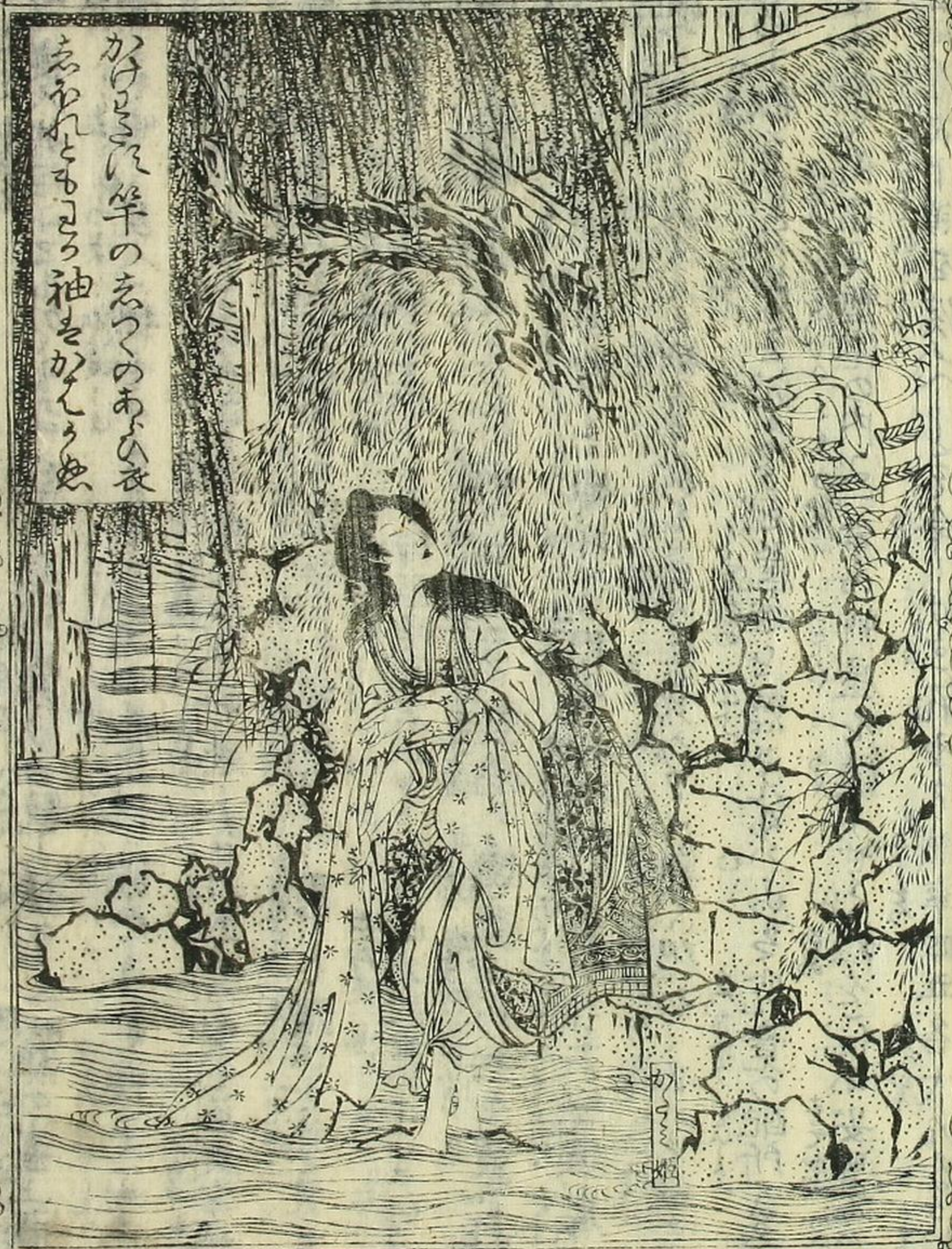
當知は貯らるる軍要金二千兩をばらんとく某は通す
 と眞一が小演説し件の契を證據とせり彈平太ハ頭領する鉄指
 矢藤五が使者よ立て主命を傳ふぬと一毫も疑はざり日矢藤五と
 留めく叮嚀小餐食心次の日三櫃の軍要金を通す小丸矢藤五ハ
 小丸後率ホは扛擔しつさぬ容もく彈平太ホは辭し別は往き
 志むむとる小丸けりこの後西三日を經く平泉より石室の秘書紛失
 のる露頭し又矢藤五ハ厨川の柵を成らば二千金を略奪し逐電
 せしむるのえいふ経任を蹉跎しと罵り憾めどもせんまふあこの比又
 誰のふとある文字柵を殺せりこの時夏と風聞をり経任はれ
 疑心生る又彼血は深まる字紙を檢る小暴道が跡も似る事ども熟
 覽むる非なるのみ只疑をよほのまふ又文字柵は使れる童女

病臥をのの枚擧る小遣あり。光仲ハ且く攻撃の力を先
 みる陣中をうち巡り病を妨ひ薬を与へる心成用じとも瘥るのち
 絶やれ傳流るの言ふと並べ死ざる稀也現陣中ハ療治保養小
 便あり光仲を憐れ新小附後ハ兵の病臥を五八三人ハ潜小後ハ
 扶乗して郷里へ送り遣し又遠く後ハ兵士卒を鎮守府の城遣ら
 本復の後參會ふ下を告知この故ふは五百騎と仰せしも僅小七百
 餘騎小遣り中二三百餘名ハ病疲々のも後少立ざるのみ只
 卒の惣大将光仲以下佐味下河邊城戸水草の數輩ハ兵士急なれども
 天運の踏とるのあしけり初彼此より郷士野武者未附後ハ俄頃小
 勢小あり一日小兵糧を費せし亦小これ小廣細もその意を
 鎮守府より糧を續ぐおとすは久し柱とあり光仲廣細の連
 署小佐味高利加判り屢國府へ使者を遣し兵糧運送の催促等問ふ
 守護頭人ホ光仲の功を相けん事小假托しその催促小後ハ
 程小春去り四方の八重山翠増を夏のふめ小なる小多り舊穀ハ已に竭て麥ハ
 食ふを食ふ夫食小物成瀬あり光仲も今も糧を取る小方ありて
 士卒飢渴小及んと遠くをゆえける時小四月十三日光仲ハこの早下河邊
 高吉を召近つて兵糧の言少を問小高吉答く今今絶小有しそけふ
 十日餘りあり豆の炊ゆ足るべくも少くも度既小難義及ぶ計へく
 もやといひひく歡息を光仲ゆらち點頭し亦亦豫そりさのうんと
 一あり就て火急の一説あり城戸四郎武詮を召べ別亦軍議ありこの曠昏小
 諸將士本陣小集合と隈らつて狗より期及く説示せんハ
 立止高吉ハゆる果て軀て外面へ退る少選て城戸武詮來はるは

光仲へ左右の人を遠ざけ、武詮小うち對ひ和殿を招きしむる別議あり。兵糧既小竭、士卒飢渴、小及んと、和殿へ國家の為小死ん、欲又身乃為小脱、とん、欲と問、武詮、あ、氣色を變、く、声を激、く、尊向、と、を、め、め、の、多、逆、賊、の、も、滅、亡、せ、を、私、怨、の、も、報、へ、と、成、ゆ、を、綴、糧、竭、て、主、を、食、ひ、泥、を、啜、る、小、至、る、も、進、く、柵、を、攻、ん、と、欲、を、富、足、く、壽、を、有、ら、玉、成、炊、を、食、や、も、豈、下、歩、も、逃、ん、や、と、ろ、め、を、死、脚、意、と、と、高、小、怨、を、れ、光、仲、莞、尔、と、う、ち、咲、く、と、是、の、義、勇、を、知、る、所、以、小、印、を、和、殿、と、招、た、ら、今、の、言、ハ、戲、れ、の、と、且、今、宵、柵、を、攻、く、運、を、試、ん、と、な、ら、う、和、殿、と、も、や、く、隊、兵、三、十、名、を、お、く、竊、小、近、郷、と、赴、た、車、十、四、五、輛、を、求、く、藁、囊、裏、小、燒、草、を、籠、の、二、が、一、少、火、藥、を、籠、く、と、兵、糧、を、積、る、車、の、如、く、小、と、日、暮、後、小、時、刻、を、考、三、十、名、の、隊、兵、小、件、の、車、を、推、さ、付、ら、四、便、の、比、及、小、陣、門、小、到、る、賊、徒、遠、小、これ、を、見、が、兵、糧、を、奪、取、ら、ん、と、ま、え、め、且、これ、又、水、草、太、郎、五、小、謀、を、授、け、藪、の、兵、を、出、し、敵、と、處、り、車、を、救、小、如、く、偽、員、て、逃、走、せ、ん、賊、徒、ハ、兵、糧、を、貪、く、逃、走、追、は、る、車、を、奪、取、て、引、入、ま、え、と、ま、る、あ、ら、ぶ、その、と、和、殿、ハ、度、熟、で、る、士、卒、十、名、と、約、し、と、神、識、を、搔、遣、棄、賊、兵、の、中、小、雜、り、柵、中、小、紛、と、入、り、件、の、藁、囊、裏、小、火、を、放、し、城、櫓、を、燒、き、城、門、を、開、け、日、且、亦、その、火、光、を、暗、號、と、し、度、を、と、成、風、乃、如、く、走、る、と、飛、鳥、の、如、く、士、卒、を、進、め、柵、を、抜、ん、と、も、賊、徒、日、謀、と、知、覺、し、柵、を、走、ぎ、或、ハ、敵、と、出、る、と、の、あ、と、彼、幻、術、の、り、月、を、掩、ひ、天、を、暗、し、和、殿、小、柵、入、る、と、を、ひ、と、天、日、且、成、亡、ま、幸、而、て、謀、る、が、と、和、殿、示、紛、れ、柵、入、る、と、賊、徒、小、號、語、あ、ん、と、他、の、若、く、成、也、認、て、其、が、の、如、く、小、付、し、縦、柵、中、小、入、る、と、成、り、る、と、の、い、ま、と、火、を、放、小、及、む、と、と、中、賊、徒、小

知る事ある生とくうん人の一人もあらずと見九死一生の苦計之智勇全き
 のふあざればゆく行ひるかどしとて和殿を擇用ふ武運の長短この
 舉にあらざりてと説示せば武詮感佩を異説小及びぞ欣然とて
 退る。三十名の勇卒をおく潜て近郷ゆを赴え多却説その曠昏より
 佐味竺内高利下河邊小三郎高吉水草太郎五目之のさうすん
 頭さらたる兵亦數本陣又集會して地上小圓坐を敷並べ如く小冊火を
 燒し大將の下知を俟小光仲ハ時を殺さざりて筆子の端小立ちて幕城
 掲せ床几を退け儲の席又著く程小衆皆く成無頭を低齊これと
 敬を且光仲も亦礼を答して衆人うち對ひ諸賢時刺と違へん
 遺る會合せらるる此のこれよはめありかどと光仲が武運始終全
 甘坐小声色小恥りと諺言信軍師暴道を殺せし賊將矢藤五が
 徒脱去るのヨメとて當小是攻撃への時ありれとて小せん
 陣中時瘦小うとて死亡せしめ甚よかりこの故小賊をその圖小入
 と以とも柵を攻るは足るを躬方の運の短き所歎ふと小加は兵糧
 既小竭く明日の糧あり鎮守府も亦如此るべしとて何処は食を求ん
 進退なく究りて定小危窮存亡の秋なりとて光仲ハ微賤より
 興りてこの大任を奉り且録倉の營中あく對策の日兵糧の成問を
 小某對て臣ハ兵糧の續ごらんとて患ひとせとて只經任が首を獲るの
 一日も速さるんとて成りふのことやせしるありかど今國府より兵糧運送
 遲滞とて甚くハ譴る況兵糧竭らると何方小向て軍をかへせん
 餘人のこまねのくも光仲ハ一騎とて今宵賊柵を攻撃く克すの

潔く戦致せん是則上の鎌倉殿の武命を辱めなるとも次小廣洞朝臣
 の鴻恩小答んとすの各位のことと異え九妻あり子ありの孰も企てその
 戸毎又俟ざらんや鎌倉殿への忠節も此度の役も限る小あふむかりと
 ちのふの虫身の暇を取らざらん性命を全うし後の國役も立す光仲
 拾ふとも一毫も恨ありとくせ高利高吉昌之小こぞ
 聲を激し情なきをそ兼王之家成忘れ妻子は別れ方と
 殺しと名と留め子孫の栄を思ふの武士の常情多吾們麾下小後ひと
 賊を敷くしめり愛顧と蒙るに浅くも生も死も安危を言賀殿と
 俱又甘ま欲せし小逃よむむぐれ軍談難又臨て免る城兵本意
 今更に誰う亦達れ心成存と糧竭き饑小臨て果敢く
 勸死ぬるが誘ふ共侶小宵賊柵小推し上りて鐵壁ありと破り
 經任が首級を獲ざら柵を首めり死せんの他更まゆと辞せり答り
 四下を信と見目せせ衆皆阿と嘆唱し適微妙くいふ吾們が願ふ
 所三君の存念と同日まらと諸声合し或ハ矢を折り天と拜と
 誓を示し必死の覚期小先仲さ感佩しその義烈を頌賛し諸賢宰小
 かの如くさるる攻敷んと難くさるる血氣小任し不覚小進を
 謀の軍をみる可惜命を預せられ小あふむこと聊謀ありをの城戸
 四郎ハ隊兵三十名をぬく既又近郷小赴れりその謀ハ如此く箇様
 箇様と説示しかみ水草太郎五ハ百五十騎を二隊とす柵よりである
 賊と戦ひ偽負と退くべし又病後の本復せざる二百餘人の陣中も守り
 守り徒土鏝を鳴り鯨波を揚續た攻掛る如く光仲ハ佐味
 氏と下河邊小三郎と共小三百五十騎をぬく一の城門を攻替ん武詮が



かひとら竿のまつのあひな
 志おれともころ袖をかこらぬ



みらねくの
 つきの川の
 河水も酒と
 くらんふと色
 えひふけり

下河辺高市

佐味世内

謹んとして賊卒亦が日小三遍捧衝鳴々々来つるの之を昏へ終日松吹風と
 夜へ通霄堰落を彼塹港の水音より。外小言訪みのそなり。憐むへ
 筐姫も熟ぬる業小栲衾を衣をを賊兵どもが垢之血之被る
 せ衣いらりともく解りなく鹽小載せり水際まで推りて遣るごとく苦
 死小下立立んとく踏かろ。登崩と苔深く岸滑小水高し落さぬ
 論む身を投めろ移つるや。浅瀬かみり細脛を濡せば寒死春乃
 水あらし揚る片足にこれ似るか。白鷺の友の負ちるも形死るを
 細布の一衣浸し揮濯けぶも堪え入る岸の薄氷揺碎き
 さら浪さら水の丈をこら小膽絶瞑眩と人氣のあや大江山のくその
 鬼に捉らるる風流少女が解流ひかくあしけん。と身望ら小多ひありく
 とと泣く涙の川をたのまらるる温もらぬ裳裾は袖を濡れ哀れ

ちり下りのく日婦 衣の怨家の垢に洗へども身が恥と良人の恥雪る
 よもあす栲ぬる荒足と破衣を磨ぬ玉乃顔も塵埃染を衣
 雪の膚解と乱る黒髪のをがた艱苦も日良人の為とあふ心んと
 多ども竟に疲勞果と十と定め衣の敷足が移る忽地短任が便
 室の小庭小牽くせられて憂と涙と音小竹く良人の呵責と目よ
 見せり人の憂ひを身が樂と小笑ひ戯る怨の数と復す力も裸
 緋は勝ぬ良人の命のいと惜さ小勸解と翌より又流る水温と春
 の日も花ざろち日教経と夏とまけけを香久山の山よはわぬ
 水際の松も衣乾しむる不樂積り痞小病著の上重枕も許
 さむバへの俣めり玉の緒の絶りと生憎と絶ぬ歎のあやとも
 去る時ちり良は卯茨開く四月十三日小ちる痛く死るあきふ

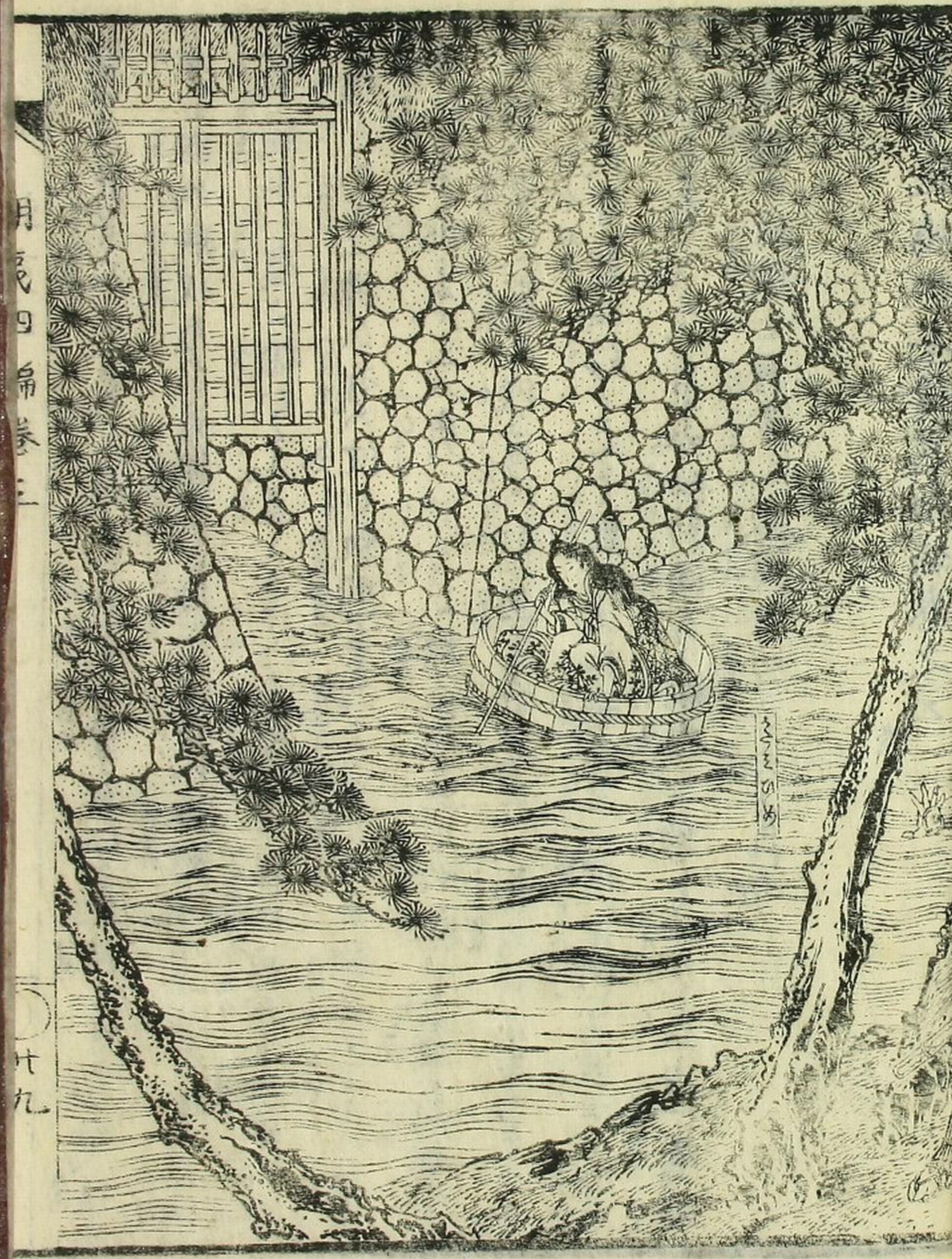
翠帳の下小養は深窓の裏小人と成り良家名族の息女なれ
 今ハ賊徒柵中の院婦とあり果て艸舎ふむ置とて夜を
 殊更小物寂しく夜行の撃拵を遠く彼此又使るの之又松風蘿月
 の外耳は觸目小庭るのあり寝らぬや小終夜佛乃御名を
 唱へて過去ぬ實父母養父母親族家臣ホまて戦死せしもの
 菩提を吊ひ現世ぬ良人の天運循環しく會替の恥を雪光絶
 家と興し廢とる受領を續せんとて禱をけり夜とて燈火と
 置くは許さば暗室小坐しく曉るを俟の冬の日小あ
 枕の辺は雪を束ねて明を取てくもあはれ夏はやあはれど
 螢の影を人の窓小光を引小由あり今宵は満天は雲とるど
 仰上は真如の月高く昇り清光白屋の檐を照し人とは
 ひと壁小添ふと與共小物成るは水路近う弱葭の風小
 戦ぐ秋鶉鶉の囀る何の故小夜は寝らぬ青山遙小く
 松声の枕は響く秋杜鵑の光惚ける誰か為小屣價を耳小
 悲を増ると目小く腸を断るは然あを
 責て過去来と名のは雙敵経任が残忍め且性急るも
 冠者を亡ひを吾侪を随せんとの鴻許の所乃るなれ
 屠所の羊とあるは命恙る不幸の中乃幸なれ
 吾侪亦彼が微を容さる小氣を靡くを俟んとるは文字搦と
 如ある故あはれは百折千磨の呵責小あはれは日糧と遺り
 存命も亦是不思議の幸あるは秋あはれは頃日糧と遺り
 来つ賊卒ホが不問語をせく小徑任が愛妾文字搦と既は狂死

一々けまば経任のく吾侪は逼りて彼愛妾小換んとてそのるの遠き
 と此のころあり。さる吾侪が死ん日も又遠うういと覚しう経任遂小本
 意を遂まら怒りて冠者を殺しやせん。日か身ひとを潔うして死んと
 さま共侶不良人を亡ふの憾あり。さてもかて死ぬる身乃。ゆほまをり
 爰小苦めらましく人ありぬ。経任が心の鬼の迎を俟べらうや水屑と
 ちゆまきも。あの塹港より脱れちる。遂小寄るの陣又赴死この柵中の
 虚実を告ぐ守まらこのほろをさう。御方の兵を導きたつ。そのをり
 塹の埋草とともる。怒敵亡ぶべく。冠者を救ふ。あやん過世福
 らく生れ来く。女の子乃體を稟ま。まどと。正しく源氏の將帥九
 郎判官の女小。そあ。ま。と。父ハ矢嶋の戦ひ小船八艘が端より端へ飛
 遷り。あ。の。と。女子も水小。入。り。あ。の。と。荒磯の蜚。ま。る。終。バ。波。乃

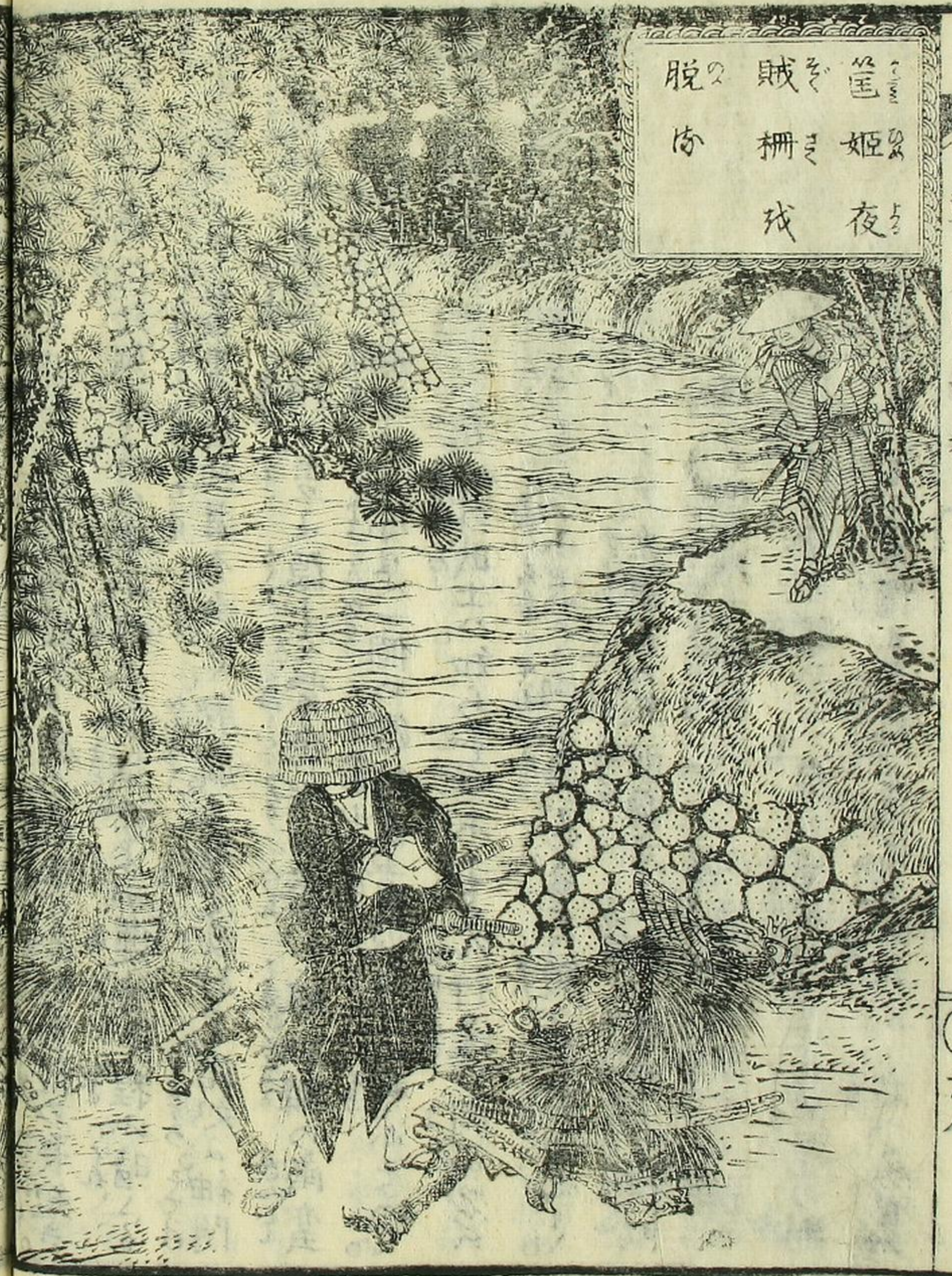
底ゆく術を考ふ。終ど一念凝る。火中入り。水をも涉さく。やハ巴人父
 判官の信。ま。の。山城鞍馬の毘沙門天。近く。膽澤大明神。月来
 念。の。なる。圓通寺の観音菩薩。壇今宵。匠。力。を。勦。く。彼。斬。二。極。く
 渡させ。あ。と。霎時。禱。ま。く。外。を。う。ち。仰。死。月。の。影。り。推。を。ま。ま。に。
 夜。も。尚。二。更。の。比。ち。る。べ。賊。徒。要。害。を。憑。ま。て。や。夜。行。る。力。の。も。ま。ま。
 稀。ち。り。あ。の。起。日。を。吉。日。を。空。小。今。宵。と。過。さん。や。と。志。成。励。し。の。
 外。面。小。立。出。く。水。際。に。赴。ん。と。く。又。多。く。あ。り。さ。あ。も。何。と。り。
 廣。れ。塹。を。ま。ま。に。水。戯。と。中。ん。を。考。ふ。ぬ。身。の。不。覚。小。進。ま。ん。諺。小。鶉。の
 真。似。ま。ま。の。鳥。ま。ま。ん。要。し。を。あ。め。と。見。え。り。や。西。三。步。立。戻。り。て。押。舎。の
 門。傍。に。倚。り。し。る。洗濯。盤。を。引。起。し。ま。ま。今。宵。の。渡。舟。論。ま。ま。沈。め。亡
 魂。の。夢。小。見。せ。く。も。寄。り。小。告。く。終。め。雙。を。亡。さん。ま。ま。を。左。右。の。も。成

らまゝ又さゝ小辱め小ありんより。そく論まんと目を閉て念佛十遍をり
 唱へり。刃をさしせ監を覆さんそく縁よふ成かけらるが又さひくさる。
 渠り追隊の賊兵さるる。おの駈るる死ぬ一人立在るいと不審し。等
 々。間ま遠くとも。隈まき月影小く。見ま。賊徒の次女は似ざる
 のあり。さく神佛の擁護小く。りて。それを資る者さる。致これ。あなぬ
 欽な多く小死を急ぐ。愚るらん。うや吾侪の仇なる。と。死さる小
 遅れとやある。只天運は任せんと。多へ怖む。驚うむ。波乃ま。く
 流さる。吹くる風や助けん。おのえむ。度の半を過く。前面へ近くなり
 され。と。ま。岸や。さ。ら。う。う。さ。ま。けり。當下彼武士ハ。匡姫を。と。認めり。
 豫く用意や。ま。を。けん。腰小。袂一。索を。さ。う。出。く。水上小。投か。る。小。索の
 端小。鐘あり。鉤を。さ。著。と。ま。大。竈。違。へ。ど。匡。姫。の。監。の。縁。ま。う。ち。掛。く。
 ま。づ。小。岸へ。引。り。お。せ。り。か。く。その。鉤を。外。へ。く。此。度。ハ。姫。の。帯。小。う。ち。お。せ。
 ら。ま。ま。中。馬。の。山。小。あり。と。み。る。番。御。さ。る。ん。小。い。と。軽。ら。る。小。引。揚。る。早。技
 り。た。り。や。う。の。あ。り。と。な。ひ。あ。り。
 力量。世。間。小。類。ま。ま。く。も。あ。ら。ね。ば。匡。姫。と。夢。の。中。小。又。夢。を。見。る。
 心。地。ま。ま。吉。凶。を。判。り。も。あ。り。と。忙。然。と。つ。め。わ。る。容。止。を。つ。く。と。
 笠。の。内。より。透。り。こ。ん。と。あ。ん。が。ま。是。吉。見。冠。者。義。邦。の。内。室。ま。ま。や。
 此。れ。を。藤。園。と。成。り。て。賊。徒。の。妻。妾。さ。る。さ。る。成。知。り。匡。姫。小。あ。ら。ず。
 や。と。問。ま。く。僅。小。頭。を。搥。裏。く。胸。小。お。ふ。か。う。こ。の。人。吾。侪。を。助。け。の。せ。せ。り。
 善。快。悪。欽。い。ま。ま。ま。ね。ど。隠。し。と。ハ。あ。ら。く。小。あ。ら。る。形。と。深。念。し。り。
 現。推。量。小。違。ふ。ま。ま。く。吾。侪。則。筈。なる。あ。ん。が。ハ。又。何。國。の。人。そ。ひ。く。小
 ま。ま。こ。う。人。成。を。や。も。知。り。く。助。け。の。ひ。り。圖。ま。ま。け。る。幸。々。名。告。め。と
 向。之。く。も。心。を。さ。せ。く。点。頭。の。ま。懐。ら。り。一。管。の。呼。声。の。笛。を。探。り。出。す。

澄くくろやど吹鳴せむ。塹を距ると遙みく。叢立る樹蔭より一個の
 行客走り来り。筐姫敬馬をく。遠く見久む。その人の年齢廿の久を
 三四をくべ。色浅黒く。髯青かり。花田の袴の夾衣を精悍しく。裳折
 寒衣。腰より一口の短刀を跨。足より涅塗の脚絆を穿。その人骨の
 田舎備く。こゝ彼かのづら甲乙あり。件の武士に立形。彼行客と捉
 せらる。要時耳語。やうら成ゆ。く。筐姫ふら。對ひ婦人かろ。む
 驚くべ。今ハコ名と告。むと。遠くむ。知る人。今宵ハ
 特小月明く。潜ぶ小便。ころろ。あ。ゆ。め。問答究め。危。あ。り。が
 影を隠。せん。む。この男を俱。多く。と。い。そ。せ。行客への答。と。こ。こ
 姫の。取。り。背。小。引。被。け。足。は。信。し。く。走。去。け。り。件。の。武。士。ハ。木。が。く。を
 ち。要。時。を。目。送。り。再。び。岸。邊。小。立。り。水。は。腰。大。盥。は。鉤
 索。投。り。引。り。き。く。其。四。石。小。繫。糸。苗。腰。より。扇。を。抜。出。し。斬。上。の。短。長。短。き
 向。の。岸。の。高。低。を。試。す。ろ。ろ。の。中。小。揣。り。横。さ。り。小。運。歩。く。程。不。暗。く
 天。も。定。め。ら。く。叢。雲。忽。地。月。を。包。く。朦。朧。と。空。を。よ。け。り。浩。然。と。袖。附
 ぎ。鎧。の。う。ろ。戎。蓑。小。掩。し。笠。は。隠。し。紫。金。作。の。太。刀。を。佩。細。鏢。の。南。蛮
 肱。甲。小。筋。金。入。り。臙。甲。せ。り。亦。一。個。の。潜。行。武。者。彼。も。こ。の。斬。上。を。み。て
 遙。小。右。の。う。ろ。り。来。り。件。の。武。士。ハ。知。ら。む。や。あ。り。ん。行。逢。の。間。は。い
 む。忽。地。礮。と。撞。當。む。互。小。退。く。西。三。歩。の。あ。り。騷。ぎ。倍。と。目。ま。く
 序。は。と。と。吐。れ。り。左。の。う。ろ。立。戻。り。又。前。面。より。一。個。の。武。者。打。扮。似
 たる。菅。蓑。の。腰。より。漏。る。鎧。の。威。毛。輪。鐵。打。り。鉢。巻。を。竹。子。笠。小。隠。し
 ても。ち。月。頭。り。焼。刀。の。金。具。さ。り。小。耀。り。岸。の。螢。欬。雲。き。星。の。目。生。の。影
 軟。と。疑。り。件。の。武。士。も。こ。も。小。懼。む。序。は。と。と。吐。れ。り。右。へ。久。せ。む。

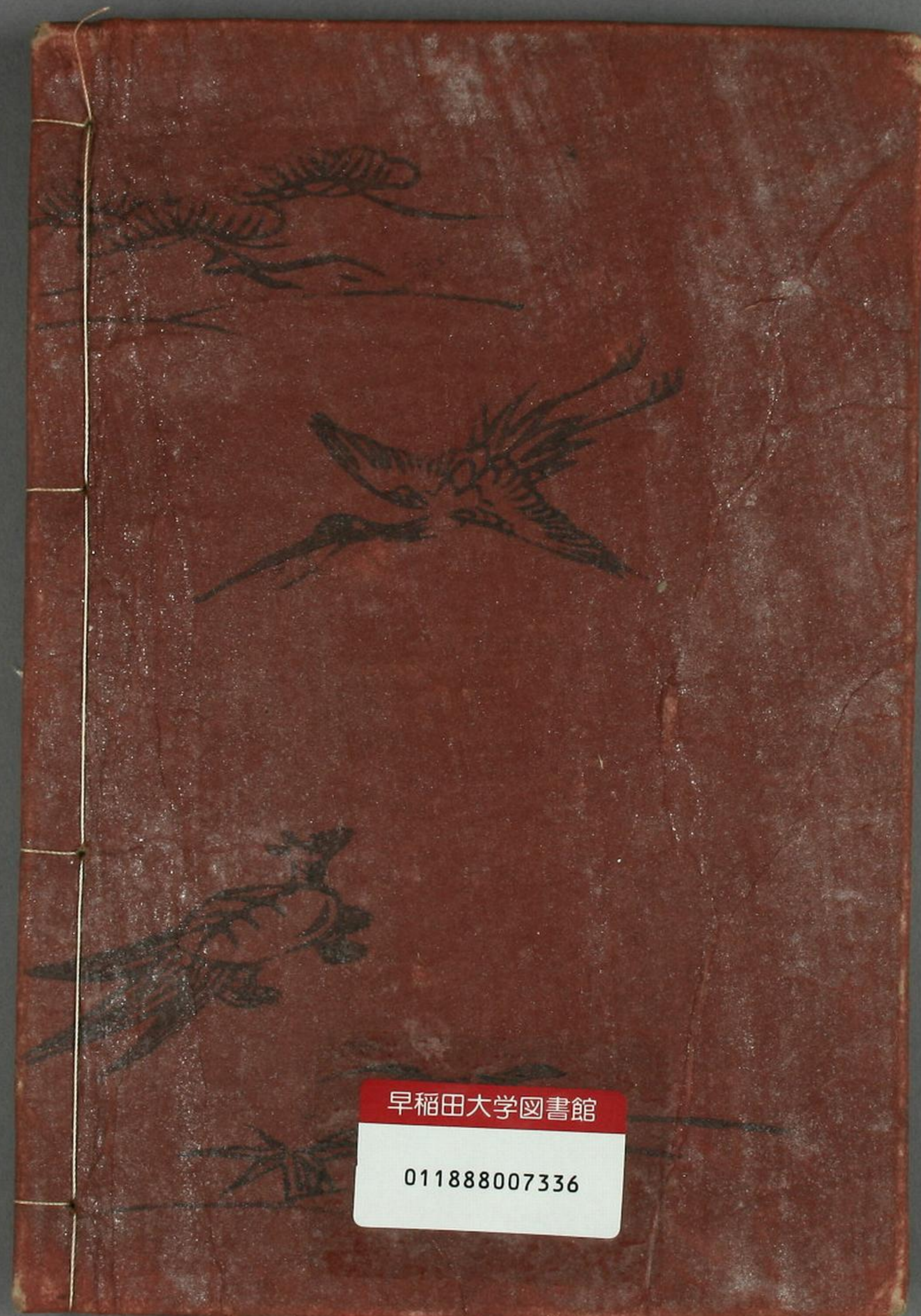


脱 賊 篋
 舟 柵 姫
 戎 夜



あまの武者左へ入せば。あまの武者巨壁をむき見詰りて。二人信と
 身を固め疾視あつても諸笠小隔く入せぬ面影を。こんとてかく倚両
 敵の腕を一度は振おとす。直より入る巻法の極秘彼方も境ぬ相撲
 の推し小突へ拂ひ打ぐ沈む孰間より一上二下二人を敵む小力士の働は
 拳乱をど挑む。二人齊一諸笠小隔く引落せぬ袋も對離れ
 うた拂ふ雲之霽と洩る月の影小面を。こんとて義秀ゆふを。こんとてや
 と向ふ武者能くぬと見く。然りふ和殿を。二二廣光何この武士が朝夷
 好飲まはるく。とむるふ。初對面なる嗣忠も豫く名を。一舊識
 不思議の値偶と再會小感嘆呼吸を合せけり。

朝夷巡嶋記全傳第四編卷之三



早稲田大学図書館

011888007336